

中齋塾 東京フォーラム
平成 25 年度 第 4 回講話

平成 25 年 4 月 13 日
東京フォーラム
於 湯島聖堂

この間、足利学校へ参りましたら色々とお誘いを受けました。今度は皆様も御一緒に足利学校へ参りましょう。また嵐山の安岡郷学研修所に行きまして、安岡正泰理事長にこの間のお礼を申しましたら「安岡正篤記念館も 40 人ぐらいは泊まれますので、どうぞご利用下さい。でもその時にはひと声かけて下さい」と言われました。何故お誘いのお話が多いのかなと思いましたが、「時代が求めている」と言われまして納得致しました。「塾長の話しているものが時代とあっているのです。良いことをしていれば、必ず報われる。本物であれば声がかかってくる」という風に理解をしました。反対に悪いことは…と考えてみますが、昨日中齋塾の月次監査で、中小零細は昨年末に閣議決定の税制を調べる。中小零細の役員報酬は閣議決定で変わったので波に乗れなかった方はお給料を考えねばならない。給料を下げた場合だって税金は見逃しません、という何だか理屈が通らない話を聞きました。これで思い出したのが、山田方谷の『理財論』の中で、「国がおかしくなってきた時には、官僚が我が物顔で振るまい、税金をどんどん上げていき、従来税制を変えて、今までなかった物にも税金をかける。重箱の隅をつついて税金を取ろうとする。国が減じる動きの最たるものが税金を苛税にすることが、一つの目安」とあります。日本の国は今、どんどん国民の首を苦しめているところです。

塾長への質問

(中齋塾フォーラムでは質問を戴ければ塾長がお答えを致します。)

今回、酒井代表幹事と比田井副理事から塾長への質問を戴きました。早速、酒井代表幹事からの質問です。

・「塾長が講話の質問で嘘をつかなかったかというのがありますが、私は一日・二日以上になると手を挙げるのが難しくなる。嘘は全部悪いものだ。本当のことを言わないことや、嘘もある。塾長にとっての嘘の定義を伺いたいと思います」という質問です。

良い嘘はついても良いと思っています。良い嘘というのは、相手が死にそうな時に、思ったことをそのまま言うのではなくて、相手を励ますような嘘は良いと思います。

例えば、自殺しようとした人が考えてこんでいる時に「借財がそれだけあると、しょうがな

いよね」と本当のことを言う。それよりは、「借財を減らすには、こういう方法がある」と希望をもたせる方がよいと思います。言葉には言霊があります。言葉の中にどれだけ意味があるか考えて戴きたい。「嘘」というのは、自分だけ利を食ろうと思って後ろめたい気持ちで発する言葉は嘘。ですから単純に後ろめたさを感じるかどうか、周りをみて自分だけ良い思いをしようと言う嘘はだめです。自分だけ利益を食ろうとするか、後ろめたさを持つかどうかと解釈をして戴きたい。そういうものは言わぬが良いでしょう。本当かも知れないけれど嘘かもしれない。相手の為になる、相手にとって良かれと思って発する言葉は真実と違ってよいと考えて戴きたい。

以上のことを踏まえまして、**恒例の質問**です。

・自分だけ儲かればよいと思ってついた嘘、またはつかれた人？

いないですね。

・朝起きて、今まで嘘をついていない人、また昨日一日、嘘をつかなかった人？では一ヶ月はいかかでしょうか？

・夜寝る時に、三省。三度省みる。三省は三回ではなく、常に随時とみます。

今日は良い日だったか、有難うございますと言えたか、明日は良い日かなと思い起し省みて寝る。そうしますと、朝はすっきりです。それを毎回繰り返すと良いでしょう。

心に残る言葉

「曾子曰く、吾 日に三たび吾が身を省みる」

渋沢栄一さんが口述筆記で作られた『論語講義』という本があります。周りの人に勧めましたら、昔の文章で固いため読み難いそうです。それを私が柔らかくして書いたのが『渋沢論語をよむ』という本です。渋沢爺さんという感覚で、渋沢爺さんが私に手紙を書ってくれた。その手紙は分かりやすくてよかったな。周りの人が読むと読めなかったのも、その中で私に伝えたい、言いたいことを抽出して書いたのが『渋沢論語をよむ』です。個人情報保護法の前なので実名を出しています。

三省と渋沢栄一さんは切り離せないと思います。渋沢栄一さんは、一生の間で五百数十社の日本の基幹産業となった企業を作りました。実業界から引退した後、それを上回る規模のボランティアをした人です。利益を貪るような経営者トップは日本の国が滅びる。世の為、人の為を考えて企業経営をし、さらに発展し世界の役に立つということを言い続けていた人です。

自分自身の反省で使っていたのは三省です。夜眠る時に、「今日はどなたと会ったか、どんな約束をしたか」を思い出して眠りにつく。そういうものが世の中に波及をして、人様から頼まれて色々なことをする。時に真心を持って相手に良かれと思ってしていたそうです。

比田井副理事長からの質問は長いのですが、端折って読みます。

・「激動する通過徴税についての総合的判断、基軸通貨ドルの由来、アメリカ経済、米国ドルの決裁通貨、ユーロ、米中韓の形…」と書いてあります。基軸通貨でドルの由来について考えたということでしょうか。また「外柔なる日本経済の今後の動静、輸出一方に頼る脆弱経済構造改革、小泉政権の財制改革、新設住宅着工、サラリーマン賃金の現象、以上を総合的判断でお教え戴きたい」

今回お話をする上においてたくさん言いますと焦点がぼけますので、ちらっと答えます。

・激動する通貨情勢について、ドルの行方

ドルは揺らいでいますし、どんどん落ちていく。ドルが基軸通貨としてその地位を保つということは考えられません。日本はアジア圏に入りますが、アジアの中では日本は弾かれる。日本は日本独自の通貨圏になると思います。

(比田井副理事長) ーだんだん弾かれる路線に入っているのを感じます。

基軸通貨を作る動きは、若干ですが日本にもあります。弾かれた結果として、地域としての基軸通貨となるのではないかと思います。

・小泉政権の財政改革

小泉さんは地獄の釜を開けた人だと思いますが、しなければもっと酷いことになってたでしょう。何故ならば日本国の経済破たんが表面化した場合は、IMF が日本に来てどんどん解雇をし、消費税は 20 パーセントに上げる。公共工事は全部ストップするという荒療治を当時の柳沢金融大臣が国会で発表しました。今、現実には先に取り込んでいていると思います。確かにアメリカに言われたことを「はいはい」と言ってやっているが、小泉元総理大臣がやっていなければもっと酷いことになっていたと思います。賛否両論です。小泉さんがやっていた郵政民営化は新たな動きを踏み出したと思っています。コンビニと郵政が一緒にやるというのは当時考えられなかった。昔からある郵便局がコンビニに変わり、ローソンと郵便局が業務提携したと新聞・テレビの報道を見て変わったなと思いました。

・本国会で景気の問題

税制面にメスを入れる。消費税に手をつける。及び腰がひどい。

今は税金を上げるべきではなく、税金を減らし内需を良くする。目先のことで税金を上げようとしているのは、とんでもないと思っています。この中で官僚のミスだと思うのは、何か悪いことをしたから法律で規制をするというのは、動機も良くないし、勉強が足りない。法律を強化してしまったのは官僚の責任です。

・個人消費は落ち込むか

それは落ち込むにきまっています。なお給料が減っています。春闘で賃金をアップする

のに掛け声を出しています。掛け声をかけるのは良いけれど、大企業だけが賃金アップということで、世間はみな下がるはずです。なので個人消費は落ち込むに決まっている。同時にインフレや税金の問題。税金は消費税もそうですけれど、めくらまし戦争です。ハッと気がついたら色々なものに消費税がこれだけ入っていたのかと落ちついて考えないと分からないようになっていきます。めくらましを掛けてどんどん税金を増やそうとしているなと感じます。どんどん税金があがり景気の動向の影響もあり、生活必需品も上がる一方です。過度な個人消費はやめようと思います。

内需は確かに頑張っているところもある。実体経済のありかたについては、自分自身が本物の人間になろうと思うこと、会社も本物志向になることです。官僚、政治家も同じです。みな本物志向に向けば、世の中の役に立つ。それが経済に反映すると思います。

(比田井副理事長) —その通りだと感じます。基軸通貨としては私の仕事にも影響をします。今のお話のように外貨が日本に入っていない。例えば、株式市場を見ましても日本が一番値下がりをしている。今日のテレビで、外資の株式 49%、日本では 37%しか取引が無い。こういう中で経済そのものが停滞するのではと心配しています。決裁がドルで決裁をしなければいけないのか、宝石はドルを基軸通貨としています。今後この仕事を本物に持っていく。本物志向には思うのですが、なかなか合致しない。これを憂いて悩んでいるところです。ありがとうございました。

少しずつドルの価値が下がってきます。一変に急落はしないけれど、徐々に下がると考えています。

「足るを知る」・「嘘をつかない」・「言うことは実行する」。これをベースにしてお話を申し上げた次第です。

ここで今一つ思い出したのが、酒井代表幹事が前に分科会で、「こんな事はなかなか出来ない。もっともっとと思うから会社は発展し、人間も発展する。ほどほどとしたら向上心が無くなるのではないか」という質問でした。

それに対して、ひとつの実例を御披露します。今の世の中は、新型インフルエンザが発生して、どんどん感染者が増え死亡者も増えています。厚生省の話聞いた時には 21 万人～26 万人の死亡者がでる。国立感染症研究所は以前、日本人 600 万人が死ぬであろうと発言をしています。政府の発表をニュースで流れているのを見たら、「新型インフルエンザは日本で発生したら防げません。発生させないことはできません。新型インフルエンザが日本で発生するのはごく当たり前で、これは防ぎようがありません。政府としては感染者が出た時にどのような対応をすればよいかを検討をしています」という発言でした。聞いた時には、これは何なんだと思いました。新聞・テレビが世間に公表するとパニックが起きるようなことを平然と発言をしていると感じました。最初の新型インフルエンザの発表は 1 億 2 千万人が亡くなるということでしたが、今は 9 億人であろうと言われています。これからどんどん危険度が増す。

それを踏まえまして、その中での事例です。中齋塾参与の大野さんが、非常にマスクの依頼が増えていると言っていました。今月の28日ビッグサイトでマスクを臨時発売することにし、15日は大阪で新型インフルエンザについて大手企業の方の講演会があり、そこから、「今から講師は増やせないが、私の時間15分を削って話して下さい」と言われたそうです。チラチラとそのような動きが増えてきました。大野参与はお金の話を全然しないで色々と進んでいますが、私は「お金はどうしましょうか」と伺った時に、「そのことだけでも、一所懸命考えまして私は知足主義でいこうと思います」と答えられました。何故かと聞きましたら、「儲けようと私は思わない。こういう気持ちになったのは初めてだ」と言っていました。

大野参与は大学を卒業して日中貿易の会社に入って、ゼロからはじまり出世していきました。今まではどれだけ利益を上げるかを考えて仕事をしていたそうです。しかし今回のマスク販売は商売だとは感じない。自分の利益を増やそうと思うのではなく、社会の役に立ち皆様のお役に立つ知足主義でいこうと思う。それでは知足主義とは何かと考えた時に、世間で新型インフルエンザ用のマスクが出始めているが、まだまだ値段は高い。だったら安く販売をする。でも代理店の方には安くとはできないので、自分の取り分を減らそうと考えました。私は、自分の取り分を減らしてその間に入った代理店を増やしたいと思い、一生懸命やることを始めた。結果としてみんなが喜ぶような判断をする生き方をする。これは知足主義ではないでしょうかと聞かれました。

知足主義の実践、物理的なものでいくと「いっぱい儲けなさるな」ということです。ほどほど。他の方もほどほど。みんなが豊かでいられるぐらいの値段設定で、自分の利益を上げるのではなく、世の中の役に立つことをやると精神的に満足感がある。これによって利益を上げるという意識が無くて、お金がお金ではないという商売になると嬉しい。実践で事例が出てきたなと感じましたので御紹介をしました。

紹介書籍

『人は皆「自分だけは死なない」と思っている』 山村武彦著 宝島社

素読論語解説 先進第十一（前半）

【二五】子路・曾皙・冉有・公西華 侍坐す。子曰く、吾が一日爾より長ぜるを以て、吾を以てすること母かれ。居れば則ち曰う、吾を知らざるなりと。如し爾を知ること或らば、則ち何を以てせんと。子路 率爾として対えて曰く、千乗の国、大国の間に擧まり、之に加うるに師旅を以てし、之に因るに飢饉を以てせんに、由や 之を為めば、三年に及ぶ比おい、勇有りて且つ方を知らしむべしと。夫子 之を晒う。

色々と説はありますが、孔子がこの話をしている時は71歳。子路は耳順の時代で耳従う

62 歳。曾皙 45 歳、冉有 42 歳、公西華 29 歳。

孔子を中心として子路が側に座っていて、お弟子さん達が囲んで和氣藹々と話をしているという雰囲気です。孔子は「お前達より歳が上だからといって遠慮はいらないから、みな言いたいことを言ってごらん」と。

現代風に置き換えると、アベノミクスが 3 本の矢で成長戦略 3 カ年と言っていますが、子路も同じで「三年経てばこの国は」を「日本の国」と置き換えると、兵車千台を出す程の国が、大国間にはさまって、さらに戦争、飢饉といったようになった場合、私（子路）がその国に用いられて治めれば、三年ぐらいで人民を勇気づけ且つ正しい道をわきまえさせることができる、と子路は無遠慮に言っているという会話です。ここら辺で孔子は「お前はいつも自信たっぷりだね」とフツと笑う。

孔子から見ると子路は耳順の時代だから、色々な人が色々と言うけれど自分の信念は変えない。人様に対する時には柔らかく対応しないといけないという時代にも関わらず、子路は言い方も立っているので、氣をつけないといけない。

今回の素読論語は長いので途中までとし、続きは次回のフォーラムにてお話をします。